

# 知的障害特別支援学級（〇〇学級） 生活単元学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

## 1 題材名 とけいであそぼう

## 2 目 標

- 日常生活のなかで時刻に関心をもち、進んで活用しようとする。 (興味・関心・意欲・態度)
- いろいろな時計の時刻を読んだり、針を動かしたりする。 (経験・体験)
- 時計の長針、短針の動きや、1分単位の時刻の読み方や表し方が理解できるようにする。 (知識・技能の習得)
- ルールを守って、時刻の問題を出し合う活動をすることができる。 (自立活動3 (4))

## 3 指導について

### (1) 児童の実態

本題材は、小1男児A児と小2男児B児の小集団で行う。A児は、発達障害があり、初めての体験や予定の変化などに強い不安を示し、すぐに涙ぐんでしまう。話を聞いて理解することは苦手だが、具体物を使ったり視覚的手がかりがあったりすると理解しやすい。「何時」「何時半」の時刻が読める。B児は、知的発達遅滞で、全般的な学習面の遅れがある。学習したことがなかなか定着しない。たし算やひき算の計算はできるが、文章を読んで場面を想像することや、立式することは難しい。最近時計に興味をもち始め、「何時」の時刻を読めるようになってきた。

### (2) 教材観

本題材は、「〇〇に行こう」という生活単元学習の中に位置づけた、時刻の読みについての学習である。時刻の学習については、学習指導要領（「第1学年」の内容B(2)）にもあるように、児童の日常生活と関連づけて指導することが大切であることから、生活単元学習「〇〇に行こう」の中で、教科等を合わせた指導をすることで、日常生活の中で、時計に関心をもち、時刻が読めるようになることにつなげていく。

A児もB児も、既に「何時」「何時半」という簡単な時刻の読みを学習している。本題材では、アナログ時計を見て、「何時何分」と読めるようになることを学習する。時計の長針と短針の位置関係や5分単位を目盛りに着目して考えることで、時刻を1分単位で読めるようにし、また、示された時刻になるように時計の針を正しい位置に合わせることができるようにしていく。

### (3) 指導観

〇〇学級の児童は、体験したことや学習したことが身につけにくい。その上、授業で学習しても、学習した場面と生活の場面とが結びつきにくいことから、般化することが難しい。そこで、生活単元学習の単元帳や時間割表などの身近にあるものを教材として取り入れることで、学習した内容と日常生活とが結び付けられるようにしていく。

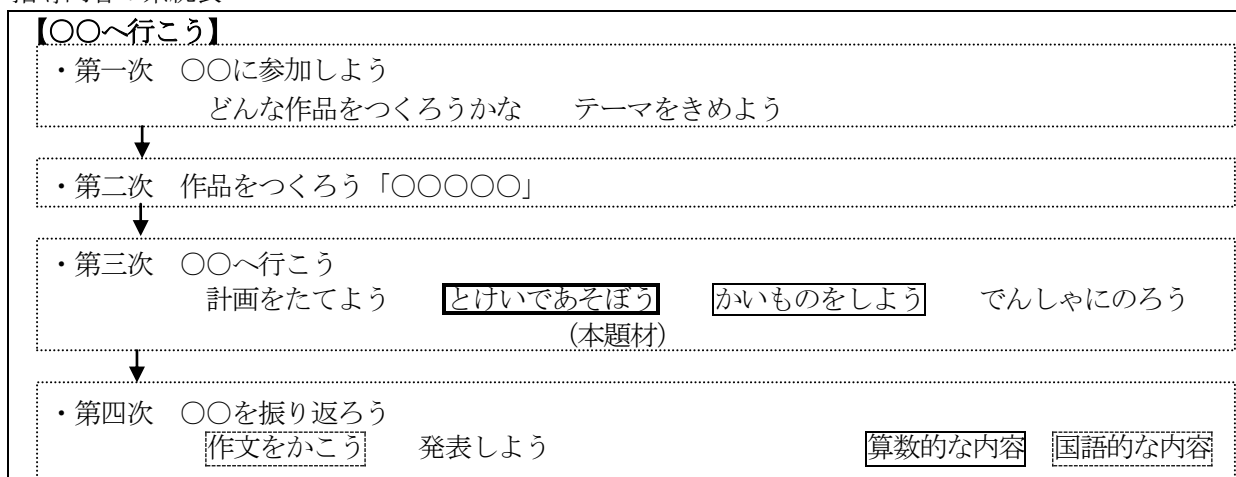
本題材は、第1学年では3時間で習得する内容であるが、時刻を読むという能力は、社会的自立の観点からも必ず習得させたい能力であるので、A児とB児の実態から5時間扱いにしている。また、学習の理解状況に応じて、指導時間を増やしたり、個別指導の時間を位置づけたりして、特別な教育課程の編成をして指導し、時刻の読み方の習熟を図ってきたい。

本題材では、ユニバーサルデザインの視点の「ひきつける」という視点から、デジタル教科書を使用し、長針と短針の動き方や位置関係に注目させていく。また、「見通す」という視点では、模型時計を操作する活動を通して、時刻を1分単位で読めるようにしていく。A児もB児も「何時」「何時半」の時刻の読みを学習しているが、B児は、「何時半」の読みは短針が数字と数字の間に位置するために理解することができなかった。そこで、「何時」「何分」の数字表示がある模型時計を使用することで、短針の位置と「何時」の関係を理解させ、1分単位で時刻が読めるようにしていく。A児には、5分単位の数字表示がある模型時計を用意することで、5分単位を目盛りに注目できるようにしていく。さらに、「つなげる」という視点から、友達と模型時計を動かす活動を通して、楽しみながら時刻の読みを習熟させたい。模型時計は、ねじを回すと針が動く一般的な物ではなく、掲示用の大きな模型時計を使用し、両手で触れ、自分で長針と短針を動かす、長針が一周すると短針が次の数字に届くという時計の仕組みにも気づかせたい。

(4) 児童の実態と個別目標

	本題材における実態	本題材における目標
A児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何時」「何時半」が読める。</li> <li>・時刻と生活時間とが結びついていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で、時刻に関心をもつことができる。</li> <li>・「何分」が5分単位の目盛りに着目して読める。</li> <li>・時刻を見て時計の針を合わせることができる。</li> </ul>
B児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何時」が読めることある一方で、短針が「何時」を示しているか分からなくなってしまうこともある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で、時刻を読むことができる。</li> <li>・「何時何分」が読める。</li> <li>・時刻を見て、時計の針を合わせることができる。</li> </ul>

4 指導内容の系統表



5 指導計画（5時間扱い） ○は本時

- 第1次 「何時」「何時半」について、様々な時計（アナログ、デジタル）の時刻を読む。・・・1時間  
 第2次 長針と短針を見て、時計を1分単位で読む。・・・2時間

次	時	学習内容	評価の観点				評価規準		○は自立活動
			関	体	技	知	A児	B児	
3	④	とけいクイズ1 (時計の時刻を読む)をする。	○		◎	○	◎5分単位の目盛りに着目しながら1分単位で、時刻を読んでいる。 (ワークシート) ○ルールを理解して、クイズに参加している。 (観察)	◎時刻を「何時何分」と読んでいる。 (ワークシート) ○ルールを守って、クイズに参加している。 (観察)	
	5	とけいクイズ2 (表示された時刻に時計の針を合わせる)をする。	○		◎	○	○ルールを理解して参加している。 (観察) ◎時計の針を正しく合わせている。 (観察)	○ルールを守って参加している。 (観察) ◎時計の針を正しく合わせている。 (観察)	

6 本時の指導

(1) 目標

ア 全体目標

○時計の長針と短針を見て、時刻を読むことができる。


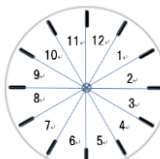

イ 個別目標


A児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5分単位の目盛りに着目しながら、時計を1分単位で読むことができる。</li> <li>・時計を見て、表す時刻を選ぶことができる。</li> </ul>
B児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何時」を正しく読むことができる。</li> <li>・時計を見て、表す時刻を選ぶことができる。</li> </ul>

(2) 準備・資料

デジタル教科書 (PC・大型 TV), 模型時計 (2種), ワークシート, 時計シート, ピンポンプザールール表, 顔シール, NU ボード, 学習内容カード, 生活単元学習単元帳 (「〇〇に行こう」)

(3) 展開

	学習内容及び活動	ユニバーサルデザインの視点からの支援及び留意点, 評価 (□ひきつける ○見通す ◇つなげる)		
		全体	A 児	B 児
5	1 始めの挨拶をし, 学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しく学習できるように心がける。意図的にA児に挨拶させるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつもと違う雰囲気にな不安になりやすいので, 緊張をほぐすような言葉かけをする。元気に挨拶できたら称賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いい姿勢で挨拶できるので, しっかり励まし, 意欲を高める。</li> </ul>
5	2 学習問題を提示して, 学習課題をつかむ。 とけいクイズをしよう。 とけいクイズをしてとけいのよみかたをおぼえよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲良く活動できるように, 二人で声を合わせて読ませる。</li> <li>時計の読み方は, 長針と短針の位置をみれば良かったことを思い出させる。</li> <li>□時計の針の動きがわかりやすいので, デジタル教科書を使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇友達の声に合わせて大きな声をだすようにする。</li> <li>・視覚的な手がかりがあると理解しやすいことから, 動画を見ることで, 「何時何分」を読むには, 長針と短針の位置に注目することを思い出させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇友達の声と合わせることを事前に伝えておく。</li> <li>○「何時」は短針の位置, 「何分」は長針の位置を読むことを思い出させる。</li> </ul>
20	3 時計クイズをする。 ④黒板に貼ってある問題を NU ボードに貼って出題する。 ⑤解答する。 ⑥デジタル教科書で確認する。 ⑦⑧ワークシートに記入する。 *出題者と解答者は, 交互に行う。  問題    短針シート  長針シート	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ルール表を用意し, ルールをしっかり理解させてから, 活動に入る。</li> <li>・楽しい雰囲気でき活動できるようにピンポンプザールール表を用意する。</li> <li>○時刻には, 生活単元帳で使用する時刻を用意しておく。</li> <li>・ワークシートには, 単元帳に貼り直せるように作成した時計シートを貼っておく。</li> <li>◇NU ボードには, 透明シートに「何時」「何分」の数字表記をしておき, 問題の時計に重ねれば, 解答できるようにしておく。</li> <li>◇数字表記のある模型時計も用意して</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇視覚的な手がかりがあるとルールを理解しやすいので, 児童の顔写真を用意し, 役割がわかりやすいようにする。ルールがいつでも確認できるように, ルール表を黒板に掲示しておく。</li> <li>・「何時」を間違えてしまう時には, 何時の表記のある模型時計を使って考えさせる。</li> <li>○0分から数えて考えているときには, 5分単位の目盛り注目して考えるように言葉をかける。</li> <li>(評) 5分単位の目盛りに注目して, 時刻を読もうとしている。(ワークシート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ルール表を見ながら聞くように言葉をかけ, 内容が理解できるようにする。</li> <li>○間違えても, 泣いたりイライラしたりせずに, 最後まで取り組めるように励ます。</li> <li>○もし, 分からなくても, 数字表示のある模型時計や補助シートを使えばよいことを話し, 意欲をもたせる。</li> <li>○「何時」と「何分」2枚の補助シートを使って考えさせる。</li> <li>(評) 何時何分を正しく読もうとしている。(ワークシート)</li> </ul>

3	<p>4 まとめをする。</p> <p>「なんじ」は「みじかいはり」, 「なんぷん」は「ながいはり」をよむ。</p>	<p>おく。どちらを使って考えてもよいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>穴埋め式シートを用意することで、できるだけ自分の力でまとめられるようにする。穴埋めのことばは、それぞれ異なる物を用意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「なんぷん」・「なんじ」を埋めるシートを用意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みじかいはり」・「ながいはり」を埋めるシートを用意する。</li> </ul>
5	<p>5 単元帳学習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに貼ってあった時計シートを単元帳に貼り替える。</li> </ul> 	<p>◇ゲームで学習した時刻が、実際に〇〇の見学に必要な時刻だったことを伝え、日常生活の中で使用する大切な学習であったことに気付かせる。</p>	<p>◇学習した時間が、実際の生活の中で使う時間だということを気づかせ、日常生活の時間に関心がもてるようにする。</p> <p>(評) 表記された時刻を見て、正しい時計の時刻を選択している。(単元帳)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した時刻を、単元帳に張り替えることによって、机上の学習と日常生活とがつながっているというイメージ化ができるようにする。</li> </ul> <p>(評) 表記された時刻を見て、正しい時計の時刻を選択している。(単元帳)</p>
2	6 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ノートを使ってわかったこと、できたことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わかったことを記入し、称賛しながらシールを貼るようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書くこと苦手なので、教師との問いかけで確認し、シールを貼るようにする。</li> </ul>
5	7 次時の予定を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>時計クイズ2を行うことを伝え、時計への関心が持続できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よくできたことを褒め、また、クイズに挑戦したいと思えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近買った時計の話に触れ、時計への興味をもてるようにする。</li> </ul>
	8 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦手な学習を頑張ったので、B児を指名する。</li> <li>達成感をもって終われるように、ハイタッチをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>頑張ったことやできたことをほめ、安心して交流学級に戻るようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦手な学習に取り組めたことをほめ、達成感をもって終われるようにする。</li> </ul>